

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 徳島県 】

学校名【阿南市立見能林小学校】

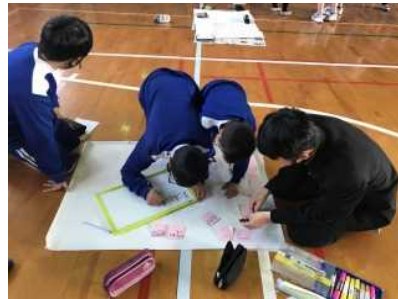
1 実践テーマ	I・II・ III ・IV・ V （複数選択可）
2 実施対象者 （学年・人数）	第2学年 1組・2組 64名 第5学年 1組・2組・3組 83名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（総合的な学習の時間・体育科）</p> <p>② 行事名（ ）</p> <p>③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ）</p> <p>② その他（ ）</p>
4 目 標 （ねらい）	徳島県の海外選手のホストタウンとしての取組に参加している徳島商業高校生との交流を通して、パラリンピック、バリアフリーへの理解を深めたり、自分にできることを考え、実践していかこうとする意欲を高めたりする。
5 取組内容	<p>本校の第5学年は、総合的な学習の時間に社会にある様々なバリアについて考え、バリアフリーな社会の実現を目指そうとする児童の育成をめざして学習を進めている。</p> <p>その学習の一環として、視覚障がい者で盲導犬ユーザーの鶴野さんとの交流や、聴覚障がいのある子を持つ湯浅さんとの交流、あいポート徳島の久保さんとの2年にわたる交流などを通して、障がい者に対する理解を深めている。</p> <p>また本校は、昨年度よりオリンピック・パラリンピックムーブメント全国展開事業に参加しており、前年度の報告会や、報告集で他校の取組についての情報を知る機会があった。その中で、徳島県が2020東京パラリンピックに参加する海外の選手のホストタウンとして名乗りを上げていること、徳島商業高校生がその取組に参加していることを知った。徳島商業の担当教員の話聞き、この活動にいっしょに参加させていただくことにした。</p> <p>また、「ボッチャ」を体験することで、パラリンピックへの理解を深めようとした。</p> <p>パラリンピックとはどんな大会で、どんな種目があるのかを聞き、そのパラリンピック種目の一つであるボッチャを実際に体験することで、パラリンピックをより身近に感じることができるようにした。</p>



徳商生のプレゼンを聞いたり，ジョージア国歌を教わったりした。



パラアスリートに届ける歌やジョージア語のメッセージを撮影。



高校生からアドバイスをもらいながら，プレゼンの準備。



バリアのない共生社会をテーマに，各班がプレゼンテーション。



2・5年生でのボッチャ体験の様子

<https://www.youtube.com/watch?v=hFesfYDL9Fg&feature=youtu.be> (ジョージア応援メッセージ動画)

<p>6 主な成果</p>	<p>年齢の近い高校生が、堂々と自分たちの取組をプレゼンテーションする姿や、歌唱指導をする姿を間近で見られたことは、小学生にとって、身近なモデルとなるものであり、よい刺激となった。ホストタウンとして招く選手の競技や、国々に対しても興味が高まった。</p> <p>徳商生がパラアスリートをもてなすための取組を参考に、自分たちにできるバリアフリーに向けた取組を考えることができた。その際、高校生からアドバイスを受けることで、話し合いがより活発なものとなったり、まとめ方や発表の仕方をレベルアップさせたりすることができた。</p> <p>ポッチャは、5年生だけでなく、2年生でも容易に競技することができ、みんなで楽しめていた。一人の投げた球で、勝敗の行方が大きく変わることから、転がし方や投げ方を工夫し、ジャックボールに少しでも近づけようとしたり、他の球に当てて動かすことにより、自分のチームを有利にしようとしたりすることに集中できていた。</p>
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>子どもたちにとって、オリンピック・パラリンピックは身近な存在ではなかった。少しでも身近に感じてもらおうと、当初は徳島県出身のパラアスリートに来ていただき、直接話を聞いたり、質問に答えていただいたりすることや、世界トップクラスの技術を見せてもらうこと、または、パラアスリートを競技の補助や、道具の提供などで支える人の話を聞くことなどを想定していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、いずれも実現できなくなってしまった。</p> <p>しかし、パラアスリートを側面から支える活動をしている人、しかも年齢が近い高校生がいることを知った。しかも、本校の5年生の総合的な学習で取り組んでいる共生社会をめざす学習内容と通じるものがあったことから、いっしょに活動をさせてもらうことにした。</p> <p>徳商生の活動を紹介するプレゼンから学ぶことも多かったほか、5年生の話し合い活動では、各グループに高校生が入り小学生に助言をしてくれた。高校生にとっては、リーダーとしての体験ができる一方、小学生にとっては、リーダーの姿を間近に学ぶ機会であった。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の拡大のため、パラアスリートとの直接交流が実現しなかった。来年度のオリンピック・パラリンピックの開催も不透明な中、子どもたちの、高まったパラリンピックへの興味関心を、どのように持続させていくかが課題になる。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>オリンピック・パラリンピックが延期になったので、来年度開催が実現したら、徳島県がホストタウンとなっている国々のパラアスリートが活躍する姿を子どもたちに知らせたい。</p> <p>ポッチャは、低学年でも競技に取り組みやすいので、本年度体験していない学年にも体験させたい。また、ポッチャ以外にも体験できるものがあったり、パラアスリートの話をきいたりする機会があれば、子どもたちに体験させてあげたい。</p>